

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|-------------------|
| 事業所番号 | 3871300152 |
| 法人名 | 医療法人 慶尚会 |
| 事業所名 | グループホーム テレサ |
| 所在地 | 四国中央市土居町蕪崎167 |
| 自己評価作成日 | 平成 21 年 10 月 20 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 松山市持田町三丁目8番15号 |
| 訪問調査日 | 平成 21 年 10 月 27 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しずつではありますが、地域との交流もできてきています。今年度は、今までの積み重ねを振り返りテレサの良いところを職員で話し合い、継続していくところは続けていきます。
また今年度は、職員のスキルアップに努めます。
利用者の方の笑顔がいっぱい見られるよう、行事、食事、何気ない日常の生活のなかで精一杯支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域医療に取り組む病院が運営しているホームであり、医療面での安心感が高い。医療的ケアは母体病院が、身体及び精神的ケアはホームが担うことで、双方の専門性をフルに発揮できる体制が整っている。ホームの運営に管理者と職員が一丸となって取り組んでおり、職員の連携が強く、フットワークが良い。管理者と職員は、言葉にしなくても次に必要な支援が何かを理解し合ってケアにあたっている。管理者は地域との垣根を無くすことに余念がなく、その成果はホームの行事に協力者が増えていることにも表れている。また、ホームが地域密着を意識した運営を行っていることで、利用者の友人・知人が気軽に訪れることが多くなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームテレサ

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 千葉 多佳恵

評価完了日 21 年 10 月 22 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------|------|--|--|--|
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | <p>(自己評価) 地域ということ念頭に置き、今年度の事業計画をカンファレンスで話し合い、方向性を決めた。</p> <p>(外部評価) 管理者は、地域密着型サービスに移行したのを契機に、地域との関係について初心に戻って見つめ直している。地域との距離を少しでも短くしたいと理念にも地域を盛り込み、職員と共に関係づくりに取り組んでおり、地域住民がホームに気軽に訪れるようになるなど、実践につながっている。</p> | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | <p>(自己評価) 地域の活動に参加することで、五年目にしてようやく、手ごたえを感じている。近隣の方との会話や交流も増えてきた。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議を地域との窓口として捉え、近隣関係者にホーム運営への理解を求めるところから始めてきたが、現在では催し物の準備段階から近隣住民が積極的に参加してくれており、地域との交流を感じることができている。</p> | さらに地域とのつながりを深めるには管理者が中心となってホームと地域の双方に目を向けて地域に費やす時間を増やすことが重要となってくる。また豊富にある介護の知識を地域貢献に活用することもつながりを深めることになると考えられる。また、管理者を専任で置くこと等についても検討することを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価) 昨年度より、市の会合に参加したりしているが、ホーム独自の取り組みはまだできていない。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|--|
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | (自己評価) 運営推進会議も3年目で少しではあるが、充実してきているように思う。利用者ケアや、地域とのかかわりについて貴重なご意見を聞かせて頂く機会となっている。 | |
| | | | (外部評価) 運営推進会議を重ねるごとに地域との距離が縮まっていることが、記録等からうかがえる。メンバーにはホーム運営の実情を知ってもらうため、利用者とはふれあう時間や昼食の試食会等を催すなど工夫している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | (自己評価) 問い合わせなどの対応程度で、積極的とは言い難い。 | |
| | | | (外部評価) 管理者は、市担当者とは定期的な会議や運営の報告時等に相談するよう心がけている。また、地域包括支援センターにも顔を出し、制度等の情報を得るようにしている。しかし、地域内にホームが少ないこともあり、利用者のサービスに直結するような協力体制が築かれていないとまでは言えない。 | 最近、地域包括支援センターのエリア内に新しいホームができ、ホーム同士の協力関係を築いているが、さらに堅固なネットワークにしたり、他地域のホームとの連携を深めるためにも、市担当者や地域包括支援センター等とのより積極的な連携を望みたい。 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価) 身体拘束については、今年度も研修に参加したり、リーフレットなどの回覧で周知徹底をはかっている。 | |
| | | | (外部評価) 自己評価の際に、身体拘束は身体面と精神面とがあること等を職員全員で見直して確認し合っている。研修にも参加しており、受講内容を職員間で共有している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|--|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 普段何気なく発する言葉でも虐待につながるということをカンファレンスで話している。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 成年後見制度については通年の課題で、適用したい利用者もいたが、現在は当法人理事長が関わっている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 入居申し込み時と入居の際に、説明している。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) ご家族の方は運営に関してもご助言をくださいます がそれを生かしていく取り組みは今後の課題だと考えている。 (外部評価) 家族からの意見を聞き取るため、意見箱の設置や家族会等を行っている。また、管理者及び職員は明るく丁寧に声をかけ、家族が意見を云い易い雰囲気づくりに配慮している。家族との付き合いも長くなっていることから、意見や要望が余り出ない状況にある。 | 長年付き合い合っている家族と対等な立ち位置で話すことも必要な時期に来ていると考えられるため、ホームで行事を行う時には家族にも役割をお願いするなど、家族をお客様としてもてなす時とは異なる視点で話を聞き出すことで協働を図る等の取り組みを期待したい。 |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-----------------------------|----------|--|---|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) コミュニケーションは 取れていると思う。 (外部評価) 管理者が職員の意見を聞き出して受け入れる姿勢をもっており、トップダウンでもなくボトムアップでもなく、管理者と職員が一丸となってホーム運営に取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 職員は頑張っているが、就業環境など考慮して頂きたいところもある。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 今年度はスタッフのスキルアップを事業計画に入れ、誰でも、研修に参加できるよう努力している。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価) 相互研修に参加したり、近隣のグループホームに見学に行くことで、交流している。相互研修に参加したスタッフは、ケアに対して、積極的な取り組みも見られる。 | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 最近では、入居の相談のあと、できるだけご家族と共に、見学に来て頂くようお願いしている。また、入居が近づくと、訪問もしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) 入居の相談があり、ご本人やご家族とはできるだけ不安をもって頂かない対応に心を砕いている。現在のところご家族との関係でトラブルはない。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) 現在の状況では、緊急事例にすぐ対応できないが、できるかぎりの相談には応じている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) 入居者の個性を尊重し、介護者は生活のパートナーであるという考えのもと、日々介護に努めていると思う。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 面会時や、行事の参加を通し、できるだけ本音ではなしかできる関係を作っていけるよう努力している。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) 馴染みの美容室によ行ったり、ご家族以外のご近所の方の面会も増えてきている。 (外部評価) ホームの近隣出身の利用者が多く、地域との密着度が増す毎に利用者の知人がホームに訪れ、昔話に花を咲かせている。また職員にも地元出身者が多く、利用者との共通の話題で話し込むこともしばしばある。これらを活用して、ホームでの生活が利用者の生活歴の延長線上に位置するような支援に努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|---|--|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 座席の工夫や、トラブルの回避に特に気を使い、良い関係が築けるよう努めている。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 他施設に移られた時には、できる限りの情報提供をしているものの、継続できる取り組みはしていない。 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) ご本人の思いを把握できるよう努めているが、なかなか本音を探ることは難しいと感じている。 (外部評価) 職員は、利用者の思いを理解しようと、入浴や散歩等利用者と一対一になる機会を利用して生活歴の聞き取りに力を入れている。その際に得た情報は申し送りや話し合い、介護記録に記載している。しかし、聞き得た情報の伝達手段や記録方法が統一されておらず、全ての情報が職員間で共有化されているとまでは言えない。 | 利用者の生活歴等の情報は貴重な財産であり、管理者を含め職員全員での共有化が必要と考えられるため、職務中でも簡単に記録できるよう工夫された統一用紙に記録していく等の工夫を期待したい。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 自宅での生活すべてを把握することはできないが、共に生活するなかで、把握できるよう意識している。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) い日常生活記録表や個人ノートを活用し、日々の状態の把握の把握に努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | <p>(自己評価) 限られた時間でのカンファレンスだが、できるだけスタッフと話し合い、方向性を考えている。ご家族の方には、面会時や、お便りで確認している。まだ充分出ないと思われる。</p> <p>(外部評価) 介護計画は適宜見直し、家族等にも関わりを求めている。担当職員が介護目標の振り返りを行い、それを基に職員全員で意見を出し合うことで介護計画を立てている。振り返りには介護記録が用いられているが、記載内容が必ずしも介護計画の記述ではなく、モニタリングが客観的に行われているとまでは言えない。</p> | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | <p>(自己評価) 記録は詳細にするよう努めてはいるが、把握はできるものの、深い分析をする記録は、出来ていない。</p> | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | <p>(自己評価) ご家族やご本人の要望には個別に応じられていると思うが、サービスの多機能化というところまで、取り組めていないのが現状。</p> | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | <p>(自己評価) 少しずつではあるが、なじみの場所（神社、寺等）へ出かけたりする機会を作っている。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している | (自己評価) 大半が隣接する協力病院に、かかっているが、ご家族 の希望や、入居前のかかりつけ医の意向もお聞きし他 病院に通院している入居者もいる。 | |
| | | | (外部評価) 母体病院が地域医療に取り組んでいるため、多くの利 用者が在宅の時から母体病院をかかりつけ医としてい る。母体病院と異なるかかりつけ医であった利用者 も、隣接している病院を信頼して変更している場合が 多く、医療面で安心感が高いホームである。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している | (自己評価) 協力病院の看護師とは、受診のうちに、情報を提供し ている。 | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | (自己評価) 入院時には、書面による情報提供を行っている。可能 な限り面会に行き医療機関との連携につとめている。 | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる | (自己評価) 母体病院が隣接しており、重度化した場合は入院とな るパターンがほとんどである。 | |
| | | | (外部評価) ホームは、地域医療に取り組む母体病院と協働して利 用者の生活を支援しており、医療的ケアは母体病院が 担っている。利用者や家族も法人の方針を理解してお り、医療ニーズが高まると生活の基盤が母体病院とな ることも承知している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|--|-------------------------------|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) 急変時の手順など周知徹底するよう努めている。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) 昨年度から、火災を想定し、消防訓練や運営推進会議などで啓発をしている。地震水害に関しては、まだ未着手。 (外部評価) 避難訓練は消防署の協力のもと、隣接の母体病院やデイケアセンターと一緒にしている。利用者への理解を深めてもらおうと、消防署職員にもホームで利用者とともに食事をしてもらうなど、前向きで細やかな取り組みを行っている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) 限られた空間のなかで、個人のプライバシーを守るよう、注意している。 (外部評価) 管理者は、職員に対し利用者のプライバシーについて仕事場以外では雑談程度でも口外することを禁止している。利用者も地域住民の一人であることから、外出時や交流の際に利用者の誇りが損なわれないような配慮をしている。日常の言葉かけも利用者の状況に応じて優しく穏やかである。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 利用者の嗜好にあわせ、個別の援助ができるよう努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) スタッフも満足できる活動が出来ないのが現状だが、出来るときには、希望に沿えるような支援をしたい。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) 入居者の好みの色など、気をつけ服装は選んでいる。 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 行事食や簡単な調理は、入居者にお手伝いしていただきながら、作っている。 (外部評価) 職員が「食事は自慢です」と話すように、一皿ひと皿に手間を掛けている。季節を感じる添え物等は食事中的話題にもなり、和やかな雰囲気です。後片付けの手伝いが難しい利用者も、職員が運びやすいように皿を重ねるなど、各自できることをしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 体重管理、水分摂取など母体病院の指導を参考にしながら、その方に応じた食事を提供している。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 毎食後、口腔ケアは行っている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) 時間誘導、のほか気持ちを高める支援により、おむつが外れた方もいる。 | |
| | | | (外部評価) 介護目標として排泄の自立を目指している利用者には、本人の意欲を高めるために「共に悩み共に喜ぶ」取り組みを行っている。利用者は、ちょっとしたことでも共に喜ぶことで自信を持つことができ、自立に繋がっている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) 便秘薬と併用し、個別に繊維質のものや、牛乳などを摂取していただく。薬の服用の仕方も工夫している。 | |
| | | | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) 毎日入浴の機会を設けている。 | |
| | | | (外部評価) 入浴を嫌がる利用者にも声かけや時間帯等の工夫を行い、入浴を促している。管理者及び職員は、可能な限り浴槽に浸かって入浴を楽しんでもらいたいと考えており、入浴を清潔保持だけでなく精神的なリラクセスの手段として支援に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) 生活のリズムを把握しているので、その日に眠れない方がいても充分対応できている。 | |
| | | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 薬の内容など気になる方には 説明書など見せて納得してもらうようにしている。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 塗り絵であったり、習字、歌など取り入れ、また生活の場面で細かな作業をして頂いている。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) ご家族が積極的に外出の支援をしてくださる方もいる。スタッフも今年度の目標として外出支援に努めている。 (外部評価) 職員数に余裕のないシフトであることや、商店やスーパーには車が必要となる立地条件等から、外出が物理的に難しい状況にあるが、外出を増やすことを今年の目標として取り組んでいる。状況が整えば急に外出を企画することもあり、職員の連携とフットワークの良さで利用者の外出を少しでも多くできるよう努めている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 現在自分で金銭管理が出来るかたがほとんどいない状況。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 出来るかたの支援はしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 既存のスペースながら、時々に応じソファの場所を工夫したり居心地がよいように配慮している。 | |
| | | | (外部評価) ホームの造りは全体的にゆったりとした設えになっている。周りにも建物が少ないため、大きな窓からはのんびりとした田園風景が見え、リビングに居ながら外気浴が楽しめる空間である。共用空間はソファでダイニングとリビングに区切られており、利用者それぞれがお気に入りの場所で日中を過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | (自己評価) ダイニングもリビングでもリラックスできている。 | |
| | | | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) それなりに、出来ていると思う。 | |
| | | | (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込み、写真や絵等も飾られている。各部屋にはクローゼットが備え付けられており、全体的にすっきりとしている。また、備品のイスとテーブルも利用者が思い思いに配置し、居心地の良い部屋となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | (自己評価) トイレや風呂場の表示や各居室も入居者の方がわかるようにしている。 | |
| | | | | |

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|-------------------|
| 事業所番号 | 3871300152 |
| 法人名 | 医療法人 慶尚会 |
| 事業所名 | グループホーム テレサ |
| 所在地 | 四国中央市土居町蕪崎167 |
| 自己評価作成日 | 平成 21 年 10 月 20 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 松山市持田町三丁目8番15号 |
| 訪問調査日 | 平成 21 年 10 月 27 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しずつではありますが、地域との交流もできてきています。今年度は、今までの積み重ねを振り返りテレサの良いところを職員で話し合い、継続していくところは続けていきます。
また今年度は、職員のスキルアップに努めます。
利用者の方の笑顔がいっぱい見られるよう、行事、食事、何気ない日常の生活のなかで精一杯支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域医療に取り組む病院が運営しているホームであり、医療面での安心感が高い。医療的ケアは母体病院が、身体及び精神的ケアはホームが担うことで、双方の専門性をフルに発揮できる体制が整っている。ホームの運営に管理者と職員が一丸となって取り組んでおり、職員の連携が強く、フットワークが良い。管理者と職員は、言葉にしなくても次に必要な支援が何かを理解し合ってケアにあたっている。管理者は地域との垣根を無くすことに余念がなく、その成果はホームの行事に協力者が増えていることにも表れている。また、ホームが地域密着を意識した運営を行っていることで、利用者の友人・知人が気軽に訪れることが多くなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームテレサ

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 千葉 多佳恵

評価完了日 21 年 10 月 22 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------|------|--|---|--|
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | <p>(自己評価) 地域ということを念頭に置き、今年度の事業計画をカンファレンスで話し合い、方向性を決めた。</p> <p>(外部評価) 管理者は、地域密着型サービスに移行したのを契機に、地域との関係について初心に戻って見つめ直している。地域との距離を少しでも短くしたいと理念にも地域を盛り込み、職員と共に関係づくりに取り組んでおり、地域住民がホームに気軽に訪れるようになるなど、実践につながっている。</p> | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | <p>(自己評価) 地域の活動に参加することで、五年目にしてようやく、手ごたえを感じている。近隣の方との会話や交流も増えてきた。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議を地域との窓口として捉え、近隣関係者にホーム運営への理解を求めることから始めてきたが、現在では催し物の準備段階から近隣住民が積極的に参加してくれており、地域との交流を感じることができている。</p> | さらに地域とのつながりを深めるには管理者が中心となってホームと地域の双方に目を向けて地域に費やす時間を増やすことが重要となってくる。また豊富にある介護の知識を地域貢献に活用することもつながりを深めることになると考えられる。また、管理者を専任で置くこと等についても検討することを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価) 昨年度より、市の会合に参加したりしているが、ホーム独自の取り組みはまだできていない。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|--|
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | (自己評価) 運営推進会議も3年目で少しではあるが、充実してきているように思う。利用者ケアや、地域とのかかわりについて貴重なご意見を聞かせて頂く機会となっている。 | |
| | | | (外部評価) 運営推進会議を重ねるごとに地域との距離が縮まっていることが、記録等からうかがえる。メンバーにはホーム運営の実情を知ってもらうため、利用者とはふれあう時間や昼食の試食会等を催すなど工夫している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | (自己評価) 問い合わせなどの対応程度で、積極的とは言い難い。 | |
| | | | (外部評価) 管理者は、市担当者とは定期的な会議や運営の報告時等に相談するよう心がけている。また、地域包括支援センターにも顔を出し、制度等の情報を得るようにしている。しかし、地域内にホームが少ないこともあり、利用者のサービスに直結するような協力体制が築かれていないとまでは言えない。 | 最近、地域包括支援センターのエリア内に新しいホームができ、ホーム同士の協力関係を築いているが、さらに堅固なネットワークにしたり、他地域のホームとの連携を深めるためにも、市担当者や地域包括支援センター等とのより積極的な連携を望みたい。 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価) 身体拘束については、今年度も研修に参加したり、リーフレットなどの回覧で周知徹底をはかっている。 | |
| | | | (外部評価) 自己評価の際に、身体拘束は身体面と精神面とがあること等を職員全員で見直して確認し合っている。研修にも参加しており、受講内容を職員間で共有している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|--|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 普段何気なく発する言葉でも虐待につながるということをカンファレンスで話している。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 成年後見制度については通年の課題で、適用したい利用者もいたが、現在は当法人理事長が関わっている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 入居申し込み時と入居の際に、説明している。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) ご家族の方は運営に関してもご助言をくださいます がそれを生かしていく取り組みは今後の課題だと考えている。 (外部評価) 家族からの意見を聞き取るため、意見箱の設置や家族会等を行っている。また、管理者及び職員は明るく丁寧に声をかけ、家族が意見を云い易い雰囲気づくりに配慮している。家族との付き合いも長くなっていることから、意見や要望が余り出ない状況にある。 | 長年付き合い合っている家族と対等な立ち位置で話すことも必要な時期に来ていると考えられるため、ホームで行事を行う時には家族にも役割をお願いするなど、家族をお客様としてもてなす時とは異なる視点で話を聞き出すことで協働を図る等の取り組みを期待したい。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-----------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) コミュニケーションは 取れていると思う。 (外部評価) 管理者が職員の意見を聞き出して受け入れる姿勢をもっており、トップダウンでもなくボトムアップでもなく、管理者と職員が一丸となってホーム運営に取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 職員は頑張っているが、就業環境など考慮して頂きたいところもある。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 今年度はスタッフのスキルアップを事業計画に入れ、誰でも、研修に参加できるよう努力している。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価) 相互研修に参加したり、近隣のグループホームに見学に行くことで、交流している。相互研修に参加したスタッフは、ケアに対して、積極的な取り組みも見られる。 | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 最近では、入居の相談のあと、できるだけご家族と共に、見学に来て頂くようお願いしている。また、入居が近づくと、訪問もしている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) 入居の相談があり、ご本人やご家族とはできるだけ不安をもって頂かない対応に心を砕いている。現在のところご家族との関係でトラブルはない。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) 現在の状況では、緊急事例にすぐ対応できないが、できるかぎりの相談には応じている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) 入居者の個性を尊重し、介護者は生活のパートナーであるという考えのもと、日々介護に努めていると思う。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 面会時や、行事の参加を通し、できるだけ本音ではなしができる関係を作っていけるよう努力している。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) 馴染みの美容室によ行ったり、ご家族以外のご近所の方の面会も増えてきている。 (外部評価) ホームの近隣出身の利用者が多く、地域との密着度が増す毎に利用者の知人がホームに訪れ、昔話に花を咲かせている。また職員にも地元出身者が多く、利用者との共通の話題で話し込むこともしばしばある。これらを活用して、ホームでの生活が利用者の生活歴の延長線上に位置するような支援に努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|---|--|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 座席の工夫や、トラブルの回避に特に気を使い、良い関係が築けるよう努めている。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 他施設に移られた時には、できる限りの情報提供をしているものの、継続できる取り組みはしていない。 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) ご本人の思いを把握できるよう努めているが、なかなか本音を探ることは難しいと感じている。 (外部評価) 職員は、利用者の思いを理解しようと、入浴や散歩等利用者と一対一になる機会を利用して生活歴の聞き取りに力を入れている。その際に得た情報は申し送りで話し合い、介護記録に記載している。しかし、聞き得た情報の伝達手段や記録方法が統一されておらず、全ての情報が職員間で共有化されているとまでは言えない。 | 利用者の生活歴等の情報は貴重な財産であり、管理者を含め職員全員での共有化が必要と考えられるため、職務中でも簡単に記録できるよう工夫された統一用紙に記録していく等の工夫を期待したい。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 自宅での生活すべてを把握することはできないが、共に生活するなかで、把握できるよう意識している。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) い日常生活記録表や個人ノートを活用し、日々の状態の把握の把握に努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|--|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価) 限られた時間でのカンファレンスだが、できるだけスタッフと話し合い、方向性を考えている。ご家族の方には、面会時や、お便りで確認している。まだ充分出ないと思われる。 | |
| | | | (外部評価) 介護計画は適宜見直し、家族等にも関わりを求めている。担当職員が介護目標の振り返りを行い、それを基に職員全員で意見を出し合うことで介護計画を立てている。振り返りには介護記録が用いられているが、記載内容が必ずしも介護計画の記述ではなく、モニタリングが客観的に行われているとまでは言えない。 | 職員間で介護目標を絶えず意識するため、介護記録は介護計画を意識した記載方法にしていくことが望まれる。また、介護目標を数値化することで利用者や職員が達成感を感じ、モチベーションの維持にも役立つと思われるので、あわせて検討を期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | (自己評価) 記録は詳細にするよう努めてはいるが、把握はできるものの、深い分析をする記録は、出来ていない。 | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | (自己評価) ご家族やご本人の要望には個別に応じられていると思うが、サービスの多機能化というところまで、取り組めていないのが現状。 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | (自己評価) 少しずつではあるが、なじみの場所（神社、寺等）へ出かけたりする機会を作っている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している | (自己評価) 大半が隣接する協力病院に、かかっているが、ご家族 の希望や、入居前のかかりつけ医の意向もお聞きし他 病院に通院している入居者もいる。 | |
| | | | (外部評価) 母体病院が地域医療に取り組んでいるため、多くの利 用者が在宅の時から母体病院をかかりつけ医としてい る。母体病院と異なるかかりつけ医であった利用者 も、隣接している病院を信頼して変更している場合が 多く、医療面で安心感が高いホームである。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している | (自己評価) 協力病院の看護師とは、受診のおりに、情報を提供し ている。 | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | (自己評価) 入院時には、書面による情報提供を行っている。可能 な限り面会に行き医療機関との連携につとめている。 | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる | (自己評価) 母体病院が隣接しており、重度化した場合は入院とな るパターンがほとんどである。 | |
| | | | (外部評価) ホームは、地域医療に取り組む母体病院と協働して利 用者の生活を支援しており、医療的ケアは母体病院が 担っている。利用者や家族も法人の方針を理解してお り、医療ニーズが高まると生活の基盤が母体病院とな ることも承知している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|--|-------------------------------|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) 急変時の手順など周知徹底するよう努めている。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) 昨年度から、火災を想定し、消防訓練や運営推進会議などで啓発をしている。地震水害に関しては、まだ未着手。 (外部評価) 避難訓練は消防署の協力のもと、隣接の母体病院やデイケアセンターと一緒にしている。利用者への理解を深めてもらおうと、消防署職員にもホームで利用者とともに食事をしてもらうなど、前向きで細やかな取り組みを行っている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) 限られた空間のなかで、個人のプライバシーを守るよう、注意している。 (外部評価) 管理者は、職員に対し利用者のプライバシーについて仕事場以外では雑談程度でも口外することを禁止している。利用者も地域住民の一人であることから、外出時や交流の際に利用者の誇りが損なわれないような配慮をしている。日常の言葉かけも利用者の状況に応じて優しく穏やかである。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 利用者の嗜好にあわせ、個別の援助ができるよう努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) スタッフも満足できる活動が出来ないのが現状だが、出来るときには、希望に沿えるような支援をしたい。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) 入居者の好みの色など、気をつけ服装は選んでいる。 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 行事食や簡単な調理は、入居者にお手伝いしていただきながら、作っている。 | |
| | | | (外部評価) 職員が「食事は自慢です」と話すように、一皿ひと皿に手間を掛けている。季節を感じる添え物等は食事中的話題にもなり、和やかな雰囲気です。後片付けの手伝いが難しい利用者も、職員が運びやすいように皿を重ねるなど、各自できることをしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 体重管理、水分摂取など母体病院の指導を参考にしながら、その方に応じた食事を提供している。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 毎食後、口腔ケアは行っている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) 時間誘導、のほか気持ちを高める支援により、おむつが外れた方もいる。 | |
| | | | (外部評価) 介護目標として排泄の自立を目指している利用者には、本人の意欲を高めるために「共に悩み共に喜ぶ」取り組みを行っている。利用者は、ちょっとしたことでも共に喜ぶことで自信を持つことができ、自立に繋がっている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) 便秘薬と併用し、個別に繊維質のものや、牛乳などを摂取していただく。薬の服用の仕方も工夫している。 | |
| | | | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) 毎日入浴の機会を設けている。 | |
| | | | (外部評価) 入浴を嫌がる利用者にも声かけや時間帯等の工夫を行い、入浴を促している。管理者及び職員は、可能な限り浴槽に浸かって入浴を楽しんでもらいたいと考えており、入浴を清潔保持だけでなく精神的なリラクセスの手段として支援に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) 生活のリズムを把握しているので、その日に眠れない方がいても充分対応できている。 | |
| | | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 薬の内容など気になる方には 説明書など見せて納得してもらうようにしている。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 塗り絵であったり、習字、歌など取り入れ、また生活の場面で細かな作業をして頂いている。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) ご家族が積極的に外出の支援をしてくださる方もいる。スタッフも今年度の目標として外出支援に努めている。 (外部評価) 職員数に余裕のないシフトであることや、商店やスーパーには車が必要となる立地条件等から、外出が物理的に難しい状況にあるが、外出を増やすことを今年の目標として取り組んでいる。状況が整えば急に外出を企画することもあり、職員の連携とフットワークの良さで利用者の外出を少しでも多くできるよう努めている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 現在自分で金銭管理が出来るかたがほとんどいない状況。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 出来るかたの支援はしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | <p>(自己評価) 既存のスペースながら、時々に応じソファの場所を工夫したり居心地がいいように配慮している。</p> <p>(外部評価) ホームの造りは全体的にゆったりとした設えになっている。周りにも建物が少ないため、大きな窓からはのんびりとした田園風景が見え、リビングに居ながら外気浴が楽しめる空間である。共用空間はソファでダイニングとリビングに区切られており、利用者それぞれがお気に入りの場所で日中を過ごしている。</p> | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | <p>(自己評価) ダイニングもリビングでもリラックスできている。</p> | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | <p>(自己評価) それなりに、出来ていると思う。</p> <p>(外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込み、写真や絵等も飾られている。各部屋にはクローゼットが備え付けられており、全体的にすっきりとしている。また、備品のイスとテーブルも利用者が思い思いに配置し、居心地の良い部屋となっている。</p> | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | <p>(自己評価) トイレや風呂場の表示や各居室も入居者の方がわかるようにしている。</p> | |